

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『株価の上昇要因、下落要因』

2017年10月13日

運用本部

皆様は、自分やご親族が生まれてから今日まで生きてきて、なぜ現在の自分の状況に至ったのかに思いを馳せることがあるのではないのでしょうか。実家の環境、友人の性格、社会に出てからの様々な経験、収入の多寡、健康状態、はたまた遺伝子の影響などなど色々な要素が複雑に影響して今の自分ができたと思われているのではないかと思います。私には兄弟が一人おり、全く同じ家庭環境で育ったはずなのですが、彼は「根っからの文化部系」な私と全く性格が違い、スポーツ好きの営業マンで、ファンドマネージャーのようなデスクワークを伴う仕事は苦手です。このため私はよく「なぜ兄弟でこうも性格が違ってしまったのだろう」と思うことがあります。(なお、遺伝子の配列がたまたま違っただけかと思えない、というのが今のところ思いつく要因です。)

運用の世界でも、「なぜこの企業の株価は上昇(下落)したのか」、「今後どうなるのか」等について、様々な角度から要因の考察が行われています。その代表的なものを挙げると以下のようになります。

- ・ その銘柄の過去半年間の株価下落率が大きかったから、株価が上昇した(下落した)
- ・ その銘柄の株価指標(株価収益率など)が割安だから、株価が上昇した(下落した)
- ・ その銘柄が好業績を発表したから、株価が上昇した(下落した)
- ・ その銘柄の時価総額が大きいから、株価が上昇した(下落した)
- ・ その銘柄の財務が良好だから、株価が上昇した(下落した)
- ・ 為替市場で円安が進行したから、その銘柄の株価が上昇した(下落した)

このように、株価の上昇や下落は、単に業績が良いとか、良くなりそうだからということだけではなく、様々な要因が複雑に絡み合っていると考えられています。例えば、好業績を発表したにもかかわらず、株価が下落することがあり、それは上記のような色々な要因が影響しているといわれています。このように株価の変動を色々な要因に細分化して分析することを「ファクター分析」と呼んでいます。運用会社や証券会社にはこのファクター分析を主な業務にしている社員が在籍していることもあります。

しかし、当レポートの冒頭で触れた「人間のファクター分析」が非常に難しいのと全く同様に、株価の変動のファクター分析も実に奥が深く、「究極の答え」はまだ見つかっていません。例えば時価総額の大小でファクター分析をするにしても、時価総額が何億円以上を「大」と考えるかで、分析結果は大きく異なってきてしまいます。だからこそ各社は「究極の答え」を見つけるべく、日々切磋琢磨しています。私も株価の騰落を決める「究極の答え」と共に、兄弟で性格が大きく違った究極の要因に辿り着いたらなと思っています。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。